

第四期中期目標・中期計画対照表

第四期中期目標	第四期中期計画（案）						
<p>中期目標の基本的な考え方 平成18年4月に開学した札幌市立大学は、「人間重視を根幹とした人材の育成」と「地域社会への積極的な貢献」を教育研究上の理念として掲げ、「D×N」（デザインと看護の連携）により教育・研究・地域貢献に取り組んできた。さらに、令和4年4月からは、A I Tセンターを開設し、「D×N」をA I ・ I T が下支えする先進的な研究や教育の質の更なる向上を推進してきた。</p> <p>昨今は、デジタル化・脱炭素化の世界的な潮流や、グローバル競争の激化、人口減少・少子高齢化の進行など多種多様な課題が取り巻いており、今なお変化途上の予測不能な時代の渦中にある。今後も一層、複雑性を増していくことが想定される社会環境下においては、普遍的知識・能力で状況を打開し課題解決に導く人材が重視されており、高等教育を担う大学には未来を支える人材の育成が求められている。そして、札幌市立大学は、「知と創造の拠点」として、これまで培ってきた実績やネットワークを生かし、「第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン」により分野横断的に取り組むこととされている、ユニバーサル（共生）・ウェルネス（健康）・スマート（快適・先端）・人口減少緩和に関する課題解決に貢献していくことも期待されている。</p> <p>こうした背景を踏まえ、第四期中期目標においては、リベラルアーツやデジタル分野の素養を備えた人材育成を強化していくとともに、産学官連携の中心として地域に貢献していくことで、市民が価値を実感し、誇れる大学を目指す。特に、A I Tセンターの強みを生かし、D（デザイン）とN（看護）にA（A I ・ I T）を掛け合わせた「DNA」連携を推進することで、教育・研究・地域貢献の取組を更なる高みへと押し上げ、市民や地域社会へ成果を還元するとともに、広報マネジメントを強化することにより、国内外におけるプレゼンスを高めていく。</p>	<p>公立大学法人札幌市立大学は、設立団体の長である札幌市長が定めた第四期中期目標を達成するため、第四期中期計画を策定する。</p> <p>平成18年4月にデザイン学部と看護学部を有する大学として開学した札幌市立大学（以下「本学」という。）は、教育研究上の理念として「人間重視を根幹とした人材の育成」及び「地域社会への積極的な貢献」を掲げている。特に、デザイン分野と看護分野のある本学の長（「D×N（デザインと看護の連携）」）を生かし、異分野連携により可能となる、人々の暮らしや社会に新たな価値を創造する教育・研究・地域貢献に積極的に取り組んできた。</p> <p>第三期中期計画の期間（平成30年度～令和5年度）である令和4年4月には、A I Tセンターを設置し、産官から受託研究の積極的な獲得によりA I やI Tの研究を推進してきた。さらには、D（デザイン）とN（看護）にA（A I ・ I T）を掛け合わせた「DNA」を本学の連携の新たなコンセプトとして掲げており、先進的な研究や教育の質の更なる向上を目指し、取り組みをスタートさせた。</p> <p>昨今、新型感染症流行の影響などによる人々の行動変容や、気候変動による大規模災害、大規模地震の発生、デジタル化・脱炭素化の世界的な潮流、グローバル競争の激化、人口減少・少子高齢化の進行などによる社会構造の変革を余儀なくされている中、高等教育機関としての大学も例外ではなく、その役割・期待は従来とは大きく異なってきている。これからは、時代の変化のスピードに対応できるだけでなく、自ら課題を発見し解決策を提案することで新しい価値を創造できる人材の育成が求められている。</p> <p>このような社会背景を踏まえ、第四期中期計画の期間（令和6年度～令和11年度）において本学は、デザイン及び看護の専門性だけでなく、知識の学び方や、急速に進化しているA I ・ I Tをはじめとするテクノロジーを道具として使いこなす方法を学ぶなど、基礎的技能としてのリベラルアーツを身につけた人材の育成に注力するとともに、「DNA」の特色を生かした社会課題解決に資する研究の推進や教育の質の更なる向上や、産学官連携や企業・団体等との交流による地域産業の振興や地域医療の充実への貢献などを通じ、時代の変化・要請に柔軟に対応できる大学を目指していく。</p>						
<p>第1 中期目標の期間等</p> <p>1 中期目標の期間 中期目標の期間は、令和6年4月1日から令和12年3月31日までの6年間とする。</p> <p>2 教育研究上の基本組織 次のとおり大学の教育研究上の基本組織を置く。</p> <table border="1" data-bbox="216 1024 596 1245"> <tr> <td rowspan="2">学 部</td> <td>デザイン学部</td> </tr> <tr> <td>看護学部</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">研 究 科</td> <td>デザイン研究科</td> </tr> <tr> <td>看護学研究科</td> </tr> </table>	学 部	デザイン学部	看護学部	研 究 科	デザイン研究科	看護学研究科	<p>第1 中期計画の期間 中期計画の期間は、令和6年4月1日から令和12年3月31日までの6年間とする。</p>
学 部		デザイン学部					
	看護学部						
研 究 科	デザイン研究科						
	看護学研究科						
<p>第2 教育に関する目標 「DNA」連携の推進により、各分野における専門性・実践能力を有し、幅広い教養やA I ・ I Tの活用力、環境共生の知見を備え、主体性を持って、新たな価値を創造しながら未来を切り開いていくことのできる人材を育成する。</p> <p>1 高度職業人の育成</p> <p>(1) デザイン分野においては、変化の大きい社会環境下においても、デザイン思考の活用により、本質的な課題・ニーズを発見し、地域・社会の様々な課題を解決していくことのできる職業人を育成する。</p> <p>(2) 看護分野においては、少子高齢化対策や虐待防止、感染症対応など地域や時代の特性を踏まえた課題と向き合い、対応できる実践能力を備えた職業人を育成する。</p>	<p>第2 教育に関する目標を達成するための措置</p> <p>1 高度職業人の育成に関する目標を達成するための措置</p> <table border="1" data-bbox="1519 1444 2778 1923"> <tr> <td>・ [学部] デザイン学部と看護学部の学生が互いの専門性のもとに協働し、地域課題の抽出・解決手法の提案に取り組む両学部の連携教育により、実践能力を備えた人材を育成する。</td> <td>【指標】 卒業時に実践能力が身に付いたと認識した学生の割合：80%（毎年度）</td> </tr> <tr> <td>・ デジタル人材の育成が求められている社会において、デザイン及び看護の専門性に、A I ・ I Tを組み合わせて活用できる人材を育成する。</td> <td>【指標】 卒業時にA I ・ I Tの活用力が向上したと認識した学生の割合：60%（4年目から）</td> </tr> <tr> <td>・ [大学院博士前期課程] 専攻分野の課題に対して、講義・演習・研究活動等を通して情報系学問分野の活用を含め多角的な視点から探求し、高い課題解決能力や実践能力、創造力等を備えた高度専門職業人及び研究者を育成する。</td> <td>【指標】 [デザイン研究科] 修了時における在学中の教育に対する総合的満足度（直近3年間平均）：80%（5段階自己評価） 【指標】 [デザイン研究科] 修了時までに学会等での学外発表：2回/人 【指標】 [看護学研究科] 修了時における在学中の教育に対する総合的満足度（直近3年間平均）：90%（4段階自己評価）</td> </tr> </table>	・ [学部] デザイン学部と看護学部の学生が互いの専門性のもとに協働し、地域課題の抽出・解決手法の提案に取り組む両学部の連携教育により、実践能力を備えた人材を育成する。	【指標】 卒業時に実践能力が身に付いたと認識した学生の割合：80%（毎年度）	・ デジタル人材の育成が求められている社会において、デザイン及び看護の専門性に、A I ・ I Tを組み合わせて活用できる人材を育成する。	【指標】 卒業時にA I ・ I Tの活用力が向上したと認識した学生の割合：60%（4年目から）	・ [大学院博士前期課程] 専攻分野の課題に対して、講義・演習・研究活動等を通して情報系学問分野の活用を含め多角的な視点から探求し、高い課題解決能力や実践能力、創造力等を備えた高度専門職業人及び研究者を育成する。	【指標】 [デザイン研究科] 修了時における在学中の教育に対する総合的満足度（直近3年間平均）：80%（5段階自己評価） 【指標】 [デザイン研究科] 修了時までに学会等での学外発表：2回/人 【指標】 [看護学研究科] 修了時における在学中の教育に対する総合的満足度（直近3年間平均）：90%（4段階自己評価）
・ [学部] デザイン学部と看護学部の学生が互いの専門性のもとに協働し、地域課題の抽出・解決手法の提案に取り組む両学部の連携教育により、実践能力を備えた人材を育成する。	【指標】 卒業時に実践能力が身に付いたと認識した学生の割合：80%（毎年度）						
・ デジタル人材の育成が求められている社会において、デザイン及び看護の専門性に、A I ・ I Tを組み合わせて活用できる人材を育成する。	【指標】 卒業時にA I ・ I Tの活用力が向上したと認識した学生の割合：60%（4年目から）						
・ [大学院博士前期課程] 専攻分野の課題に対して、講義・演習・研究活動等を通して情報系学問分野の活用を含め多角的な視点から探求し、高い課題解決能力や実践能力、創造力等を備えた高度専門職業人及び研究者を育成する。	【指標】 [デザイン研究科] 修了時における在学中の教育に対する総合的満足度（直近3年間平均）：80%（5段階自己評価） 【指標】 [デザイン研究科] 修了時までに学会等での学外発表：2回/人 【指標】 [看護学研究科] 修了時における在学中の教育に対する総合的満足度（直近3年間平均）：90%（4段階自己評価）						

第四期中期目標	第四期中期計画（案）										
	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="1516 149 2148 306"> <ul style="list-style-type: none"> ・ [大学院博士後期課程] 将来展望に基づく課題に対して、深い専門知識や幅広い見識に基づき自立的に研究活動を遂行し、有為な成果を導くことのできる高度専門職業人及び研究者・教育者を育成する。 </td> <td data-bbox="2148 149 2778 306"> <p>【指標】直近3年間の博士論文審査合格者数：6件</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="1516 306 2148 464"> <ul style="list-style-type: none"> ・ [デザイン学部] デザイン総合実習や卒業研究をはじめとするデザインの専門教育を通して、ディプロマ・ポリシーで定める専門能力を身に付け、地域や社会における課題に対応できる人材を育成する。 </td> <td data-bbox="2148 306 2778 464"> <p>【指標】卒業時にデザインの専門能力が身に付いたと認識した学生の割合：100%（毎年度）</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="1516 464 2148 621"> <ul style="list-style-type: none"> ・ [デザイン学部] デザイン学部の専門教育カリキュラムに加え、社会で求められる実践的な知識・技術等を習得するためのデザイン学部生対象教育プログラムにより、地域や社会で活躍できる人材を育成する。 </td> <td data-bbox="2148 464 2778 621"> <p>【指標】デザイン学部の教育プログラム（インベーション人材育成、環境共生型人材育成）において、知識・技術・実践力が身に付いたと認識した学生の割合：80%</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="1516 621 2148 747"> <ul style="list-style-type: none"> ・ [看護学部・助産学専攻科] 札幌市や北海道における健康課題を精査し、看護学部科目の履修課題に位置づけ、OSCEやシミュレーション教育を通して、実践能力を備えた看護職を輩出する。 </td> <td data-bbox="2148 621 2778 747"> <p>【指標】卒業時に地域の健康課題に対応する実践能力を修得したと認識した学生の割合：80%</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="1516 747 2148 905"> <ul style="list-style-type: none"> ・ [看護学部・助産学専攻科] 札幌市の少産少子化対策に寄与するプレコンセプションケア（PCC）を看護学部教育に新規導入する。PCCチェックシートを用いて学生の履修前後の行動変容を比較評価する。 </td> <td data-bbox="2148 747 2778 905"> <p>【指標】PCCを履修課題に加えた科目数：令和6年度2科目、令和11年度5科目 【指標】履修前後のポジティブなPCC行動変容率：令和6年度15%/人、令和11年度30%/人</p> </td> </tr> </table>	<ul style="list-style-type: none"> ・ [大学院博士後期課程] 将来展望に基づく課題に対して、深い専門知識や幅広い見識に基づき自立的に研究活動を遂行し、有為な成果を導くことのできる高度専門職業人及び研究者・教育者を育成する。 	<p>【指標】直近3年間の博士論文審査合格者数：6件</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ [デザイン学部] デザイン総合実習や卒業研究をはじめとするデザインの専門教育を通して、ディプロマ・ポリシーで定める専門能力を身に付け、地域や社会における課題に対応できる人材を育成する。 	<p>【指標】卒業時にデザインの専門能力が身に付いたと認識した学生の割合：100%（毎年度）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ [デザイン学部] デザイン学部の専門教育カリキュラムに加え、社会で求められる実践的な知識・技術等を習得するためのデザイン学部生対象教育プログラムにより、地域や社会で活躍できる人材を育成する。 	<p>【指標】デザイン学部の教育プログラム（インベーション人材育成、環境共生型人材育成）において、知識・技術・実践力が身に付いたと認識した学生の割合：80%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ [看護学部・助産学専攻科] 札幌市や北海道における健康課題を精査し、看護学部科目の履修課題に位置づけ、OSCEやシミュレーション教育を通して、実践能力を備えた看護職を輩出する。 	<p>【指標】卒業時に地域の健康課題に対応する実践能力を修得したと認識した学生の割合：80%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ [看護学部・助産学専攻科] 札幌市の少産少子化対策に寄与するプレコンセプションケア（PCC）を看護学部教育に新規導入する。PCCチェックシートを用いて学生の履修前後の行動変容を比較評価する。 	<p>【指標】PCCを履修課題に加えた科目数：令和6年度2科目、令和11年度5科目 【指標】履修前後のポジティブなPCC行動変容率：令和6年度15%/人、令和11年度30%/人</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ [大学院博士後期課程] 将来展望に基づく課題に対して、深い専門知識や幅広い見識に基づき自立的に研究活動を遂行し、有為な成果を導くことのできる高度専門職業人及び研究者・教育者を育成する。 	<p>【指標】直近3年間の博士論文審査合格者数：6件</p>										
<ul style="list-style-type: none"> ・ [デザイン学部] デザイン総合実習や卒業研究をはじめとするデザインの専門教育を通して、ディプロマ・ポリシーで定める専門能力を身に付け、地域や社会における課題に対応できる人材を育成する。 	<p>【指標】卒業時にデザインの専門能力が身に付いたと認識した学生の割合：100%（毎年度）</p>										
<ul style="list-style-type: none"> ・ [デザイン学部] デザイン学部の専門教育カリキュラムに加え、社会で求められる実践的な知識・技術等を習得するためのデザイン学部生対象教育プログラムにより、地域や社会で活躍できる人材を育成する。 	<p>【指標】デザイン学部の教育プログラム（インベーション人材育成、環境共生型人材育成）において、知識・技術・実践力が身に付いたと認識した学生の割合：80%</p>										
<ul style="list-style-type: none"> ・ [看護学部・助産学専攻科] 札幌市や北海道における健康課題を精査し、看護学部科目の履修課題に位置づけ、OSCEやシミュレーション教育を通して、実践能力を備えた看護職を輩出する。 	<p>【指標】卒業時に地域の健康課題に対応する実践能力を修得したと認識した学生の割合：80%</p>										
<ul style="list-style-type: none"> ・ [看護学部・助産学専攻科] 札幌市の少産少子化対策に寄与するプレコンセプションケア（PCC）を看護学部教育に新規導入する。PCCチェックシートを用いて学生の履修前後の行動変容を比較評価する。 	<p>【指標】PCCを履修課題に加えた科目数：令和6年度2科目、令和11年度5科目 【指標】履修前後のポジティブなPCC行動変容率：令和6年度15%/人、令和11年度30%/人</p>										
<p>2 学生に対する支援</p> <p>(1) 学生が希望する進路の実現に向けて、キャリア支援を充実させる。</p> <p>(2) 経済的な事情や障がいの有無、国籍、就労状況等を考慮し、多様な学生が円滑に修学できる支援体制や環境を整備する。</p>	<p>2 学生に対する支援に関する目標を達成するための措置</p> <table border="1"> <tr> <td data-bbox="1516 968 2148 1283"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生が本学での学びを生かした就職活動ができるよう、キャリア相談体制を充実させるとともに、キャリアガイダンス等の多様な取組により、的確なキャリア支援を行う。 </td> <td data-bbox="2148 968 2778 1283"> <p>【指標】 [デザイン学部] 就職内定率（直近3年間平均）：93% 【指標】 [デザイン学部] キャリア支援で実施した取組が就職活動に役立ったと認識した学生の割合：80% 【指標】 [看護学部] 就職内定率（直近3年間平均）：97% 【指標】 [看護学部] キャリア支援で実施した取組が就職活動に役立ったと認識した学生の割合：80%</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="1516 1283 2148 1377"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 経済的困窮学生が、授業料減免及び日本学生支援機構給付奨学金等により、経済的事情にかかわらず修学できるよう支援する。 </td> <td data-bbox="2148 1283 2778 1377"> <p>【指標】授業料減免申請者のうち基準該当者の100%を採択</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="1516 1377 2148 1472"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学内のバリアフリー化に関連する設備の整備・改修を進め、障がいの有無にかかわらず修学・研究に専念できるよう学内環境の向上を図る。 </td> <td data-bbox="2148 1377 2778 1472"> <p>【指標】「キャンパスの活用等に関するプラン」等に基づくバリアフリー化関連工事の執行</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="1516 1472 2148 1692"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生のメンタルヘルス（心の健康）の維持・向上を図るため、学生の現状把握、メンタルヘルス相談・支援体制の充実等の組織的取組を推進する。 </td> <td data-bbox="2148 1472 2778 1692"> <p>【指標】全学生に対するメンタルヘルスチェックの定期的な実施：1回/年 【指標】学生のメンタルヘルスに関する教職員向け研修の実施：1回/年 【指標】学生のメンタルヘルスに関する教職員向け研修が参考になったと認識した教職員の割合：80%</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="1516 1692 2148 1787"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 留学生が研究科において効果的かつ円滑に学修・研究・その他の活動を進めるために必要となる日本語能力の向上に資する支援を行う。 </td> <td data-bbox="2148 1692 2778 1787"> <p>【指標】日本語能力の向上を認識した留学生の割合：100%（毎年度）</p> </td> </tr> </table>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生が本学での学びを生かした就職活動ができるよう、キャリア相談体制を充実させるとともに、キャリアガイダンス等の多様な取組により、的確なキャリア支援を行う。 	<p>【指標】 [デザイン学部] 就職内定率（直近3年間平均）：93% 【指標】 [デザイン学部] キャリア支援で実施した取組が就職活動に役立ったと認識した学生の割合：80% 【指標】 [看護学部] 就職内定率（直近3年間平均）：97% 【指標】 [看護学部] キャリア支援で実施した取組が就職活動に役立ったと認識した学生の割合：80%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経済的困窮学生が、授業料減免及び日本学生支援機構給付奨学金等により、経済的事情にかかわらず修学できるよう支援する。 	<p>【指標】授業料減免申請者のうち基準該当者の100%を採択</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学内のバリアフリー化に関連する設備の整備・改修を進め、障がいの有無にかかわらず修学・研究に専念できるよう学内環境の向上を図る。 	<p>【指標】「キャンパスの活用等に関するプラン」等に基づくバリアフリー化関連工事の執行</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生のメンタルヘルス（心の健康）の維持・向上を図るため、学生の現状把握、メンタルヘルス相談・支援体制の充実等の組織的取組を推進する。 	<p>【指標】全学生に対するメンタルヘルスチェックの定期的な実施：1回/年 【指標】学生のメンタルヘルスに関する教職員向け研修の実施：1回/年 【指標】学生のメンタルヘルスに関する教職員向け研修が参考になったと認識した教職員の割合：80%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 留学生が研究科において効果的かつ円滑に学修・研究・その他の活動を進めるために必要となる日本語能力の向上に資する支援を行う。 	<p>【指標】日本語能力の向上を認識した留学生の割合：100%（毎年度）</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生が本学での学びを生かした就職活動ができるよう、キャリア相談体制を充実させるとともに、キャリアガイダンス等の多様な取組により、的確なキャリア支援を行う。 	<p>【指標】 [デザイン学部] 就職内定率（直近3年間平均）：93% 【指標】 [デザイン学部] キャリア支援で実施した取組が就職活動に役立ったと認識した学生の割合：80% 【指標】 [看護学部] 就職内定率（直近3年間平均）：97% 【指標】 [看護学部] キャリア支援で実施した取組が就職活動に役立ったと認識した学生の割合：80%</p>										
<ul style="list-style-type: none"> ・ 経済的困窮学生が、授業料減免及び日本学生支援機構給付奨学金等により、経済的事情にかかわらず修学できるよう支援する。 	<p>【指標】授業料減免申請者のうち基準該当者の100%を採択</p>										
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学内のバリアフリー化に関連する設備の整備・改修を進め、障がいの有無にかかわらず修学・研究に専念できるよう学内環境の向上を図る。 	<p>【指標】「キャンパスの活用等に関するプラン」等に基づくバリアフリー化関連工事の執行</p>										
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生のメンタルヘルス（心の健康）の維持・向上を図るため、学生の現状把握、メンタルヘルス相談・支援体制の充実等の組織的取組を推進する。 	<p>【指標】全学生に対するメンタルヘルスチェックの定期的な実施：1回/年 【指標】学生のメンタルヘルスに関する教職員向け研修の実施：1回/年 【指標】学生のメンタルヘルスに関する教職員向け研修が参考になったと認識した教職員の割合：80%</p>										
<ul style="list-style-type: none"> ・ 留学生が研究科において効果的かつ円滑に学修・研究・その他の活動を進めるために必要となる日本語能力の向上に資する支援を行う。 	<p>【指標】日本語能力の向上を認識した留学生の割合：100%（毎年度）</p>										

第四期中期目標	第四期中期計画（案）										
<p>第3 研究に関する目標 「知と創造の拠点」として、地域の特性や社会環境の変化・ニーズを踏まえ、まちづくりや経済発展に資する研究を推進する。</p> <p>1 市民の実感に結びつく研究の推進 「第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン」が定めるユニバーサル（共生）・ウェルネス（健康）・スマート（快適・先端）・人口減少緩和の各プロジェクトを踏まえ、社会課題解決に資する研究を推進し、市民の実感に結びつく成果を追求する。</p> <p>2 研究機関としての地位の向上 「DNA」連携による先進的で質の高い研究を推進し、研究成果やその活用事例を国内外に向けて積極的に公表・発信することで、受託・共同研究等による外部資金獲得につなげていくとともに、研究機関としての地位の向上を図る。</p>	<p>第3 研究に関する目標を達成するための措置</p> <p>1 市民の実感に結びつく研究の推進に関する目標を達成するための措置</p> <table border="1" data-bbox="1519 275 2775 625"> <tr> <td data-bbox="1519 275 2151 401">・学内競争的資金（学術奨励研究費・競争研究費）や個人研究費等を活用し、札幌市の社会課題解決に資する研究を推進することで、市民の実感に結び付く研究成果を追求する。</td> <td data-bbox="2151 275 2775 401">【指標】札幌市の社会課題解決に資する研究：10件／年</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1519 401 2151 527">・PCC研究の進展に即して、高校生をターゲットグループとする公開講座等を開催する。</td> <td data-bbox="2151 401 2775 527">【指標】PCC研究に基づく高校生をターゲットグループとする公開講座等の開催：1回／年 【指標】公開講座の受講者理解度：4.0（5段階評価）</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1519 527 2151 625">・AI・IT分野による社会課題・地域課題解決に資する研究を推進するとともに、デザイン分野、看護学分野との連携基盤を醸成する。</td> <td data-bbox="2151 527 2775 625">【指標】AI・IT技術を活用した受託研究又は共同研究の推進：8件／年 【指標】DNA連携交流会の開催：4回／年</td> </tr> </table> <p>2 研究機関としての地位の向上に関する目標を達成するための措置</p> <table border="1" data-bbox="1519 682 2775 905"> <tr> <td data-bbox="1519 682 2151 905">・URAを配置し、本学が掲げるD（デザイン）とN（看護）にA（AI・IT）を掛け合わせた「DNA」連携による研究を推進する。また、教員の研究成果や、教員の専門性を発揮した地域産学連携事例を積極的に公表し、受託・共同研究等外部資金の獲得につなげる。</td> <td data-bbox="2151 682 2775 905">【指標】連携研究による成果の公表：10件／年（令和8年度より適用開始） 【指標】地域産学連携協力依頼による成果の公表：10件／年 【指標】AITセンターとデザイン分野または看護分野の連携による外部資金の獲得：2件／年（令和8年度より適用開始）</td> </tr> </table>	・学内競争的資金（学術奨励研究費・競争研究費）や個人研究費等を活用し、札幌市の社会課題解決に資する研究を推進することで、市民の実感に結び付く研究成果を追求する。	【指標】札幌市の社会課題解決に資する研究：10件／年	・PCC研究の進展に即して、高校生をターゲットグループとする公開講座等を開催する。	【指標】PCC研究に基づく高校生をターゲットグループとする公開講座等の開催：1回／年 【指標】公開講座の受講者理解度：4.0（5段階評価）	・AI・IT分野による社会課題・地域課題解決に資する研究を推進するとともに、デザイン分野、看護学分野との連携基盤を醸成する。	【指標】AI・IT技術を活用した受託研究又は共同研究の推進：8件／年 【指標】DNA連携交流会の開催：4回／年	・URAを配置し、本学が掲げるD（デザイン）とN（看護）にA（AI・IT）を掛け合わせた「DNA」連携による研究を推進する。また、教員の研究成果や、教員の専門性を発揮した地域産学連携事例を積極的に公表し、受託・共同研究等外部資金の獲得につなげる。	【指標】連携研究による成果の公表：10件／年（令和8年度より適用開始） 【指標】地域産学連携協力依頼による成果の公表：10件／年 【指標】AITセンターとデザイン分野または看護分野の連携による外部資金の獲得：2件／年（令和8年度より適用開始）		
・学内競争的資金（学術奨励研究費・競争研究費）や個人研究費等を活用し、札幌市の社会課題解決に資する研究を推進することで、市民の実感に結び付く研究成果を追求する。	【指標】札幌市の社会課題解決に資する研究：10件／年										
・PCC研究の進展に即して、高校生をターゲットグループとする公開講座等を開催する。	【指標】PCC研究に基づく高校生をターゲットグループとする公開講座等の開催：1回／年 【指標】公開講座の受講者理解度：4.0（5段階評価）										
・AI・IT分野による社会課題・地域課題解決に資する研究を推進するとともに、デザイン分野、看護学分野との連携基盤を醸成する。	【指標】AI・IT技術を活用した受託研究又は共同研究の推進：8件／年 【指標】DNA連携交流会の開催：4回／年										
・URAを配置し、本学が掲げるD（デザイン）とN（看護）にA（AI・IT）を掛け合わせた「DNA」連携による研究を推進する。また、教員の研究成果や、教員の専門性を発揮した地域産学連携事例を積極的に公表し、受託・共同研究等外部資金の獲得につなげる。	【指標】連携研究による成果の公表：10件／年（令和8年度より適用開始） 【指標】地域産学連携協力依頼による成果の公表：10件／年 【指標】AITセンターとデザイン分野または看護分野の連携による外部資金の獲得：2件／年（令和8年度より適用開始）										
<p>第4 地域貢献に関する目標 「市民に開かれた大学、市民の力になる大学、市民が誇れる大学」として、「DNA」連携の特色を生かした教育・研究活動を通じて培った知的資源を積極的に還元することで、地域に貢献するとともに、大学の教育・研究活動を更に活性化させる。</p> <p>1 地域社会への貢献 (1) 企業・団体、他大学、高等学校、行政機関等との連携を通して、地域の発展に寄与するとともに、地域課題の解決に積極的に取り組む。 (2) 大学が培ってきた知的資源の還元や市立札幌病院を始めとした札幌市との緊密な連携により、健康寿命の延伸、防災・減災の推進及び地域コミュニティの振興に貢献する。</p>	<p>第4 地域貢献に関する目標を達成するための措置</p> <p>1 地域社会への貢献に関する目標を達成するための措置</p> <table border="1" data-bbox="1519 1129 2775 1766"> <tr> <td data-bbox="1519 1129 2151 1220">・地域発展および地域課題解決に取り組むために、企業・団体、他大学、高校、札幌市などとの連携を推進する。</td> <td data-bbox="2151 1129 2775 1220">【指標】企業・団体との連携 35件／年 【指標】他大学・高校との連携 4件／年 【指標】札幌市との連携 20件／年</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1519 1220 2151 1346">・[看護学部] 看護コンソーシアム事業を更に発展させ、履修証明制度に準じた研修に転換させる。また、大規模災害時に対応できるプログラムを新規に展開する。</td> <td data-bbox="2151 1220 2775 1346">【指標】医療施設の組織改善に役立ったと回答した参加者の割合：70%以上</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1519 1346 2151 1493">・[看護学部] 「公衆衛生看護学専攻科（仮称）」の開設により、保健師養成に特化した教育を実現し、地域の暮らしを支えるより高度な保健師を輩出する。</td> <td data-bbox="2151 1346 2775 1493">【指標】令和7年度に文科省へ課程変更申請を行い、令和8年度から当該専攻科を開設する。 【指標】専攻科開設後は、計画どおり授業運営をおこない、高度な保健師を輩出する。 【指標】修了者の保健師国家試験合格率：100%</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1519 1493 2151 1619">・[デザイン学部] デザイン学部の専門教育カリキュラムから派生する公開講座などを通じ、大学の知的資源を広く地域に還元する。</td> <td data-bbox="2151 1493 2775 1619">【指標】デザイン分野に関する市民向け公開講座の開催：2件／年 【指標】デザインに関する理解が深まった参加者の割合：70%</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1519 1619 2151 1766">・公開講座を通じて大学の知的資源を社会に還元し、市民がより良い生活を送るための新しい知見を獲得できるような生涯学習の機会をオンライン技術を活用しながら提供する。</td> <td data-bbox="2151 1619 2775 1766">【指標】公開講座の受講者満足度（職業人向けを除く）：4.5（5段階評価）（毎年度） 【指標】公開講座の開催（職業人向けを除く）：25件／年</td> </tr> </table>	・地域発展および地域課題解決に取り組むために、企業・団体、他大学、高校、札幌市などとの連携を推進する。	【指標】企業・団体との連携 35件／年 【指標】他大学・高校との連携 4件／年 【指標】札幌市との連携 20件／年	・[看護学部] 看護コンソーシアム事業を更に発展させ、履修証明制度に準じた研修に転換させる。また、大規模災害時に対応できるプログラムを新規に展開する。	【指標】医療施設の組織改善に役立ったと回答した参加者の割合：70%以上	・[看護学部] 「公衆衛生看護学専攻科（仮称）」の開設により、保健師養成に特化した教育を実現し、地域の暮らしを支えるより高度な保健師を輩出する。	【指標】令和7年度に文科省へ課程変更申請を行い、令和8年度から当該専攻科を開設する。 【指標】専攻科開設後は、計画どおり授業運営をおこない、高度な保健師を輩出する。 【指標】修了者の保健師国家試験合格率：100%	・[デザイン学部] デザイン学部の専門教育カリキュラムから派生する公開講座などを通じ、大学の知的資源を広く地域に還元する。	【指標】デザイン分野に関する市民向け公開講座の開催：2件／年 【指標】デザインに関する理解が深まった参加者の割合：70%	・公開講座を通じて大学の知的資源を社会に還元し、市民がより良い生活を送るための新しい知見を獲得できるような生涯学習の機会をオンライン技術を活用しながら提供する。	【指標】公開講座の受講者満足度（職業人向けを除く）：4.5（5段階評価）（毎年度） 【指標】公開講座の開催（職業人向けを除く）：25件／年
・地域発展および地域課題解決に取り組むために、企業・団体、他大学、高校、札幌市などとの連携を推進する。	【指標】企業・団体との連携 35件／年 【指標】他大学・高校との連携 4件／年 【指標】札幌市との連携 20件／年										
・[看護学部] 看護コンソーシアム事業を更に発展させ、履修証明制度に準じた研修に転換させる。また、大規模災害時に対応できるプログラムを新規に展開する。	【指標】医療施設の組織改善に役立ったと回答した参加者の割合：70%以上										
・[看護学部] 「公衆衛生看護学専攻科（仮称）」の開設により、保健師養成に特化した教育を実現し、地域の暮らしを支えるより高度な保健師を輩出する。	【指標】令和7年度に文科省へ課程変更申請を行い、令和8年度から当該専攻科を開設する。 【指標】専攻科開設後は、計画どおり授業運営をおこない、高度な保健師を輩出する。 【指標】修了者の保健師国家試験合格率：100%										
・[デザイン学部] デザイン学部の専門教育カリキュラムから派生する公開講座などを通じ、大学の知的資源を広く地域に還元する。	【指標】デザイン分野に関する市民向け公開講座の開催：2件／年 【指標】デザインに関する理解が深まった参加者の割合：70%										
・公開講座を通じて大学の知的資源を社会に還元し、市民がより良い生活を送るための新しい知見を獲得できるような生涯学習の機会をオンライン技術を活用しながら提供する。	【指標】公開講座の受講者満足度（職業人向けを除く）：4.5（5段階評価）（毎年度） 【指標】公開講座の開催（職業人向けを除く）：25件／年										

第四期中期目標	第四期中期計画（案）													
<p>2 地域産業及び地域医療への貢献</p> <p>(1) 学ぶ意欲がある社会人等を対象としたデジタル分野や看護分野のスキル習得プログラム等の学び直しの機会を提供することにより、地域産業や地域医療を担う人材の育成・創出に取り組む。</p> <p>(2) 産学官連携の取組推進や企業・団体等との活発な交流により、潜在するニーズを積極的に把握し、新たな価値の創造や人材の育成につなげることで、地域産業の振興及び地域医療の充実に貢献する。</p>	<p>2 地域産業及び地域医療への貢献に関する目標を達成するための措置</p> <table border="1"> <tr> <td data-bbox="1516 149 2148 338"> <ul style="list-style-type: none"> ・公開講座を通じて、職業人に対するデジタル分野や看護分野のスキル習得プログラムなど、学び直しの機会を提供する。 </td> <td data-bbox="2148 149 2781 338"> <ul style="list-style-type: none"> 【指標】 デジタル分野や看護分野における職業人向け公開講座の開催：8件/年 【指標】 公開講座の受講者理解度（職業人向けのみ）：4.0（5段階評価）（毎年度） 【指標】 産学官連携イベントの参加者満足度（有益性）：4.0（5段階評価） </td> </tr> <tr> <td data-bbox="1516 338 2148 464"> <ul style="list-style-type: none"> ・地域に新たな価値を創造し、地域産業の振興や地域医療の充実に貢献することを目的として、産学官連携および企業・団体等との交流を推進する。 </td> <td data-bbox="2148 338 2781 464"> <ul style="list-style-type: none"> 【指標】 産学官連携イベントの開催：1件/年 【指標】 産学官連携イベントへの参加：4件/年 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="1516 464 2148 779"> <ul style="list-style-type: none"> ・〔デザイン学部〕キャリア支援室での個別相談、キャリアガイダンスや専門教育科目である「インターンシップ」、学内企業セミナーにより学生が北海道・札幌市内の企業への理解を深める機会を提供する。 〔看護学部〕キャリア支援室での個別相談、進路活動ガイダンス、学内キャリア説明会及び医療機関等の個別訪問の受入れにより、学生が北海道・札幌市内の医療機関等への理解を深める機会を提供する。 </td> <td data-bbox="2148 464 2781 779"> <ul style="list-style-type: none"> 【指標】 〔デザイン学部〕道内・札幌市内の企業に対する理解が深まったと認識した学生の割合：80% 【指標】 〔看護学部〕道内・札幌市内の医療機関等に対する理解が深まったと認識した学生の割合：80% </td> </tr> </table>		<ul style="list-style-type: none"> ・公開講座を通じて、職業人に対するデジタル分野や看護分野のスキル習得プログラムなど、学び直しの機会を提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> 【指標】 デジタル分野や看護分野における職業人向け公開講座の開催：8件/年 【指標】 公開講座の受講者理解度（職業人向けのみ）：4.0（5段階評価）（毎年度） 【指標】 産学官連携イベントの参加者満足度（有益性）：4.0（5段階評価） 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に新たな価値を創造し、地域産業の振興や地域医療の充実に貢献することを目的として、産学官連携および企業・団体等との交流を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 【指標】 産学官連携イベントの開催：1件/年 【指標】 産学官連携イベントへの参加：4件/年 	<ul style="list-style-type: none"> ・〔デザイン学部〕キャリア支援室での個別相談、キャリアガイダンスや専門教育科目である「インターンシップ」、学内企業セミナーにより学生が北海道・札幌市内の企業への理解を深める機会を提供する。 〔看護学部〕キャリア支援室での個別相談、進路活動ガイダンス、学内キャリア説明会及び医療機関等の個別訪問の受入れにより、学生が北海道・札幌市内の医療機関等への理解を深める機会を提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> 【指標】 〔デザイン学部〕道内・札幌市内の企業に対する理解が深まったと認識した学生の割合：80% 【指標】 〔看護学部〕道内・札幌市内の医療機関等に対する理解が深まったと認識した学生の割合：80% 						
<ul style="list-style-type: none"> ・公開講座を通じて、職業人に対するデジタル分野や看護分野のスキル習得プログラムなど、学び直しの機会を提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> 【指標】 デジタル分野や看護分野における職業人向け公開講座の開催：8件/年 【指標】 公開講座の受講者理解度（職業人向けのみ）：4.0（5段階評価）（毎年度） 【指標】 産学官連携イベントの参加者満足度（有益性）：4.0（5段階評価） 													
<ul style="list-style-type: none"> ・地域に新たな価値を創造し、地域産業の振興や地域医療の充実に貢献することを目的として、産学官連携および企業・団体等との交流を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 【指標】 産学官連携イベントの開催：1件/年 【指標】 産学官連携イベントへの参加：4件/年 													
<ul style="list-style-type: none"> ・〔デザイン学部〕キャリア支援室での個別相談、キャリアガイダンスや専門教育科目である「インターンシップ」、学内企業セミナーにより学生が北海道・札幌市内の企業への理解を深める機会を提供する。 〔看護学部〕キャリア支援室での個別相談、進路活動ガイダンス、学内キャリア説明会及び医療機関等の個別訪問の受入れにより、学生が北海道・札幌市内の医療機関等への理解を深める機会を提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> 【指標】 〔デザイン学部〕道内・札幌市内の企業に対する理解が深まったと認識した学生の割合：80% 【指標】 〔看護学部〕道内・札幌市内の医療機関等に対する理解が深まったと認識した学生の割合：80% 													
<p>第5 大学運営に関する目標</p> <p>教育・研究・地域貢献の取組を推進するため、学長(理事長)のリーダーシップの下、戦略的、機動的かつ効率的な大学運営を行う。</p> <p>1 大学の国際化及びプレゼンスの向上</p> <p>(1) 国際的な研究論文の発表や海外提携校との交流、グローバル人材の育成強化などを通じて、大学の国際化を進める。</p> <p>(2) 大学が築き上げてきた価値・成果の戦略的な広報や市民を始めとした様々な主体との有益な関係の構築により大学のブランドイメージを高め、プレゼンスの向上を図る。</p>	<p>第5 教育・研究・地域貢献の取組を推進する大学運営に関する目標を達成するための措置</p> <p>1 大学の国際化及びプレゼンスの向上に関する目標を達成するための措置</p> <table border="1"> <tr> <td data-bbox="1516 972 2148 1098"> <ul style="list-style-type: none"> ・学生のグローバル的思考を涵養するため、基礎的な外国語力を養うとともに、既存の科目において、国際的な共通性と多様性への理解を深めるための内容を継続する。 </td> <td data-bbox="2148 972 2781 1098"> <ul style="list-style-type: none"> 【指標】 TOEIC受験率（1年次）：100% 【指標】 卒業時に国際的な文化の理解を深めたと認識した学生の割合：70% </td> </tr> <tr> <td data-bbox="1516 1098 2148 1192"> <ul style="list-style-type: none"> ・海外の学会や学術誌等において、研究成果を発表する。また、国際展示等に応募し、作品を発信する。 </td> <td data-bbox="2148 1098 2781 1192"> <ul style="list-style-type: none"> 【指標】 国際学会・国際展示及び国際誌における研究成果の発表：17件/年 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="1516 1192 2148 1318"> <ul style="list-style-type: none"> ・英語圏の海外大学との学術交流を通して、新規提携大学(英語圏)を獲得する。 </td> <td data-bbox="2148 1192 2781 1318"> <ul style="list-style-type: none"> 【指標】 新規協定締結：1大学/第4期中期計画期間 【指標】 提携校との交流：4件/年 【指標】 留学フェアの開催：1回/年 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="1516 1318 2148 1602"> <ul style="list-style-type: none"> ・本学の特長である「D×N（デザインと看護の連携）」に加え、D（デザイン）とN（看護）にA（AI・IT）を掛け合わせた「DNA」連携の取組等を中心とした戦略的かつ効果的な広報活動を展開し、教育・研究・地域貢献の取組やその成果などの大学の価値を、公式ウェブサイトやマスメディア等を通じて、市民をはじめ道内、道外にわかりやすく発信し、学生・受験生、市民、企業との接触の機会を増やす。 </td> <td data-bbox="2148 1318 2781 1602"> <ul style="list-style-type: none"> 【指標】 第四期中期計画最終年度のウェブサイトアクセス数：400,000件/年 【指標】 プレスリリース：12回/年 【指標】 市外・道外での広報展開の実施：各1回/年 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="1516 1602 2148 1812"> <ul style="list-style-type: none"> ・社会経済情勢や18歳人口の減少への対応として、志願状況及び入学者アンケートの結果を踏まえ、高校生及び高校生の進路指導を担う高校教員に対し、オープンキャンパスや高校教員説明会を通して、本学の理解を深めるための多様な情報提供の機会を設ける。 </td> <td data-bbox="2148 1602 2781 1812"> <ul style="list-style-type: none"> 【指標】 オープンキャンパスの開催：各キャンパス2回/年 【指標】 オープンキャンパスにおいて本学への理解が深まったと回答した高校生の割合：70%（毎年度） 【指標】 高校教員説明会の開催：各キャンパス1回/年 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="1516 1812 2148 1915"> <ul style="list-style-type: none"> ・サテライトキャンパスを有効に活用し、行政、企業、市民、他大学等外部機関との連携を促進する。 </td> <td data-bbox="2148 1812 2781 1915"> <ul style="list-style-type: none"> 【指標】 外部機関や他大学等との連携の場としてのサテライトキャンパスの利用：2,500人/年 </td> </tr> </table>		<ul style="list-style-type: none"> ・学生のグローバル的思考を涵養するため、基礎的な外国語力を養うとともに、既存の科目において、国際的な共通性と多様性への理解を深めるための内容を継続する。 	<ul style="list-style-type: none"> 【指標】 TOEIC受験率（1年次）：100% 【指標】 卒業時に国際的な文化の理解を深めたと認識した学生の割合：70% 	<ul style="list-style-type: none"> ・海外の学会や学術誌等において、研究成果を発表する。また、国際展示等に応募し、作品を発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> 【指標】 国際学会・国際展示及び国際誌における研究成果の発表：17件/年 	<ul style="list-style-type: none"> ・英語圏の海外大学との学術交流を通して、新規提携大学(英語圏)を獲得する。 	<ul style="list-style-type: none"> 【指標】 新規協定締結：1大学/第4期中期計画期間 【指標】 提携校との交流：4件/年 【指標】 留学フェアの開催：1回/年 	<ul style="list-style-type: none"> ・本学の特長である「D×N（デザインと看護の連携）」に加え、D（デザイン）とN（看護）にA（AI・IT）を掛け合わせた「DNA」連携の取組等を中心とした戦略的かつ効果的な広報活動を展開し、教育・研究・地域貢献の取組やその成果などの大学の価値を、公式ウェブサイトやマスメディア等を通じて、市民をはじめ道内、道外にわかりやすく発信し、学生・受験生、市民、企業との接触の機会を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> 【指標】 第四期中期計画最終年度のウェブサイトアクセス数：400,000件/年 【指標】 プレスリリース：12回/年 【指標】 市外・道外での広報展開の実施：各1回/年 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会経済情勢や18歳人口の減少への対応として、志願状況及び入学者アンケートの結果を踏まえ、高校生及び高校生の進路指導を担う高校教員に対し、オープンキャンパスや高校教員説明会を通して、本学の理解を深めるための多様な情報提供の機会を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 【指標】 オープンキャンパスの開催：各キャンパス2回/年 【指標】 オープンキャンパスにおいて本学への理解が深まったと回答した高校生の割合：70%（毎年度） 【指標】 高校教員説明会の開催：各キャンパス1回/年 	<ul style="list-style-type: none"> ・サテライトキャンパスを有効に活用し、行政、企業、市民、他大学等外部機関との連携を促進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 【指標】 外部機関や他大学等との連携の場としてのサテライトキャンパスの利用：2,500人/年
<ul style="list-style-type: none"> ・学生のグローバル的思考を涵養するため、基礎的な外国語力を養うとともに、既存の科目において、国際的な共通性と多様性への理解を深めるための内容を継続する。 	<ul style="list-style-type: none"> 【指標】 TOEIC受験率（1年次）：100% 【指標】 卒業時に国際的な文化の理解を深めたと認識した学生の割合：70% 													
<ul style="list-style-type: none"> ・海外の学会や学術誌等において、研究成果を発表する。また、国際展示等に応募し、作品を発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> 【指標】 国際学会・国際展示及び国際誌における研究成果の発表：17件/年 													
<ul style="list-style-type: none"> ・英語圏の海外大学との学術交流を通して、新規提携大学(英語圏)を獲得する。 	<ul style="list-style-type: none"> 【指標】 新規協定締結：1大学/第4期中期計画期間 【指標】 提携校との交流：4件/年 【指標】 留学フェアの開催：1回/年 													
<ul style="list-style-type: none"> ・本学の特長である「D×N（デザインと看護の連携）」に加え、D（デザイン）とN（看護）にA（AI・IT）を掛け合わせた「DNA」連携の取組等を中心とした戦略的かつ効果的な広報活動を展開し、教育・研究・地域貢献の取組やその成果などの大学の価値を、公式ウェブサイトやマスメディア等を通じて、市民をはじめ道内、道外にわかりやすく発信し、学生・受験生、市民、企業との接触の機会を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> 【指標】 第四期中期計画最終年度のウェブサイトアクセス数：400,000件/年 【指標】 プレスリリース：12回/年 【指標】 市外・道外での広報展開の実施：各1回/年 													
<ul style="list-style-type: none"> ・社会経済情勢や18歳人口の減少への対応として、志願状況及び入学者アンケートの結果を踏まえ、高校生及び高校生の進路指導を担う高校教員に対し、オープンキャンパスや高校教員説明会を通して、本学の理解を深めるための多様な情報提供の機会を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 【指標】 オープンキャンパスの開催：各キャンパス2回/年 【指標】 オープンキャンパスにおいて本学への理解が深まったと回答した高校生の割合：70%（毎年度） 【指標】 高校教員説明会の開催：各キャンパス1回/年 													
<ul style="list-style-type: none"> ・サテライトキャンパスを有効に活用し、行政、企業、市民、他大学等外部機関との連携を促進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 【指標】 外部機関や他大学等との連携の場としてのサテライトキャンパスの利用：2,500人/年 													

第四期中期目標	第四期中期計画（案）	
	<p>・同窓の絆支援の方針（ポリシー）に基づき、同窓会との連携により大学と卒業生・修了生とのつながりを一層強固なものとし、卒業生・修了生による講演会等を開催するなど在学生のキャリア教育等に生かす。</p>	<p>【指標】 [デザイン学部] キャリア教育科目「キャリアデザイン」におけるOB・OG参加型授業が参考になったと認識した学生の割合：80% 【指標】 [看護学部] OB・OG参加型進路活動ガイダンスが参考になったと認識した学生の割合：80% 【指標】 [看護学部] OB・OG参加型スキルアップトレーニングが役立ったと認識した学生の割合：80%</p>
<p>2 業務運営の改善及び効率化 (1) 大学事務局の機能強化等により、社会環境の変化・ニーズに応じた機動的な教育・研究・地域貢献の取組を実現していくとともに、大学の将来を見据えた戦略的な運営を行う。 (2) 教職員を適正に確保し、ワーク・ライフ・バランスの向上を図るとともに、デジタル化を進めるなど業務の改善及び効率化に取り組む。</p>	<p>2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置</p>	
	<p>・経営会議とその専門部会である企画室を中心に大学の将来構想についての検討を行い、部局長会議を通じた学内共有を図りながら戦略的な大学運営を推進する。</p>	<p>【指標】 将来構想策定：令和7年度 【指標】 将来構想達成進捗確認：令和8年度～令和11年度</p>
	<p>・大学設置基準及び教学マネジメント指針に定められている教育の実施に対する教員の取組に併せ、事務局体制を整備することで、教職協働による本学の取組を推進する。</p>	<p>【指標】 卒業時の教育評価アンケートの実施：各学部・研究科 1回/年 【指標】 卒業時の教育評価アンケートの分析：毎年度実施</p>
	<p>・引き続き適切な図書館サービスを継続するとともに、機関リポジトリを活用して、教員や学生の研究成果を学外に公表する。また、優れた研究成果を生み出すため、文献検索ガイダンス等により、学生の修学・研究の円滑な遂行を支援する。</p>	<p>【指標】 文献検索ガイダンスの受講：延べ300人/年 【指標】 文献検索ガイダンスの受講者理解度：4.0（5段階評価） 【指標】 機関リポジトリによる研究論文等の公表：11件/年</p>
	<p>・教職員の業務効率化を図るため、デジタル化に必要な情報基盤整備、システム導入等を行うとともに、既存業務の見直しを推進する。</p>	<p>【指標】 紙を利用して受付している学内申請業務のオンライン化の件数、及び各種事務手続き自動化の件数の合計：20件分（6年間）</p>
	<p>・適切な数の教職員を確保するとともに、大学運営に関する業務の見直し・改善を図り、組織の生産性や教職員のワーク・ライフ・バランスの向上に取り組む。</p>	<p>【指標】 全教職員の年間の有給休暇取得率：50% 【指標】 定数に基づく教職員の採用</p>
	<p>・教員評価の目的とそれに沿った項目や配点の検証・見直しを行うことにより、教員評価制度の適切な運用を図る。</p>	<p>【指標】 教員評価項目や配点の検証・見直し：1回/年</p>
	<p>・FD研修の実施及び検証を通じ、教育内容等の改善を進めるとともに、教員の資質向上を図る。</p>	<p>【指標】 教育改善等に資するFD研修の実施：6回/年 【指標】 教育改善等に資するFD研修の受講：延べ250人/年 【指標】 FD研修会の内容を理解し、得た知見が業務遂行の参考になった割合：80%</p>
	<p>・SD研修の充実や適切な人事異動の実施により、職員の能力向上や大学運営に求められる知識・経験の蓄積を図り、事務局機能を強化する。</p>	<p>【指標】 職員を対象としたSD研修への派遣：15回/年 【指標】 職員を対象としたSD研修の受講：延べ100人/年 【指標】 受講者アンケートを実施し、業務や今後のキャリアに役立つ旨の回答の割合：80%</p>
<p>3 自己点検・評価の実施・公表 継続的に自己点検・評価を実施し、大学運営の質の改善・向上に取り組むとともに、経営状況等に関して適切な情報公開を行うことで、社会への説明責任を果たす。</p>	<p>3 自己点検・評価の実施・公表に関する目標を達成するための措置</p>	
	<p>・PDCAサイクルを活用した自己点検・評価を定期的に実施するとともに、札幌市地方独立行政法人評価委員会や認証評価機関等の評価結果を踏まえ、随時改善・向上を図り、その結果を公式ウェブサイト等により公表する。</p>	<p>【指標】 認証評価機関の評価：適合 【指標】 自己点検・評価結果の公表：1回/年</p>

第四期中期目標	第四期中期計画（案）															
<p>4 財務内容の改善 外部競争資金、寄附金等の自己収入の更なる獲得に取り組むとともに、資産の適正管理と有効活用を図り、自立性の高い健全な財政運営を確保する。</p>	<p>4 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置</p> <table border="1"> <tr> <td data-bbox="1516 149 2148 464"> <ul style="list-style-type: none"> ・科学研究費助成事業、財団・企業等の研究助成、国や公的機関の委託研究への申請を促進するとともに、寄付金を獲得する。 </td> <td data-bbox="2148 149 2778 464"> <ul style="list-style-type: none"> 【指標】受託研究・共同研究・寄附金の受入：20件／年 【指標】科学研究費助成事業への新規申請：第四期中期計画期間中に在籍している教員の90% 【指標】財団・企業等の研究助成への申請：2件／年 【指標】国や公的機関の委託研究への申請：2件／年 【指標】外部競争資金獲得関連のFD等実施：2回／年 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="1516 464 2148 590"> <ul style="list-style-type: none"> ・事務の効率化・合理化等による管理的経費の節減に向けた取組を継続することにより、教育や研究等の向上につながる戦略的な経費の財源を生み出す。 </td> <td data-bbox="2148 464 2778 590"> <ul style="list-style-type: none"> 【指標】一般管理費からの経費捻出：第四期中期計画期間の累計1,000万円 </td> </tr> </table>		<ul style="list-style-type: none"> ・科学研究費助成事業、財団・企業等の研究助成、国や公的機関の委託研究への申請を促進するとともに、寄付金を獲得する。 	<ul style="list-style-type: none"> 【指標】受託研究・共同研究・寄附金の受入：20件／年 【指標】科学研究費助成事業への新規申請：第四期中期計画期間中に在籍している教員の90% 【指標】財団・企業等の研究助成への申請：2件／年 【指標】国や公的機関の委託研究への申請：2件／年 【指標】外部競争資金獲得関連のFD等実施：2回／年 	<ul style="list-style-type: none"> ・事務の効率化・合理化等による管理的経費の節減に向けた取組を継続することにより、教育や研究等の向上につながる戦略的な経費の財源を生み出す。 	<ul style="list-style-type: none"> 【指標】一般管理費からの経費捻出：第四期中期計画期間の累計1,000万円 										
<ul style="list-style-type: none"> ・科学研究費助成事業、財団・企業等の研究助成、国や公的機関の委託研究への申請を促進するとともに、寄付金を獲得する。 	<ul style="list-style-type: none"> 【指標】受託研究・共同研究・寄附金の受入：20件／年 【指標】科学研究費助成事業への新規申請：第四期中期計画期間中に在籍している教員の90% 【指標】財団・企業等の研究助成への申請：2件／年 【指標】国や公的機関の委託研究への申請：2件／年 【指標】外部競争資金獲得関連のFD等実施：2回／年 															
<ul style="list-style-type: none"> ・事務の効率化・合理化等による管理的経費の節減に向けた取組を継続することにより、教育や研究等の向上につながる戦略的な経費の財源を生み出す。 	<ul style="list-style-type: none"> 【指標】一般管理費からの経費捻出：第四期中期計画期間の累計1,000万円 															
<p>5 その他業務運営の適切な遂行</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 災害や感染症等の有事に備え、学生・教職員の安全確保のための施設・備品等の維持管理及び体制確保を行う。 (2) SDGsの視点を反映させた取組を推進するとともに、脱炭素社会の実現へ積極的に貢献する。 (3) 各種法令の遵守及び情報セキュリティ対策により、コンプライアンスの徹底を図る。 (4) 国の高等教育政策等の動向を踏まえ、入学者選抜試験を適切に実施するとともに、出願手続方法の改善等により、学生が志願しやすい環境を確保する。 	<p>5 その他業務運営の適切な遂行に関する目標を達成するための措置</p> <table border="1"> <tr> <td data-bbox="1516 653 2148 722"> <ul style="list-style-type: none"> ・保全計画に基づき、計画的に施設や設備の整備・改修を行い、適切な維持管理を行う。 </td> <td data-bbox="2148 653 2778 722"> <ul style="list-style-type: none"> 【指標】保全計画に基づく計画的な執行 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="1516 722 2148 911"> <ul style="list-style-type: none"> ・安全管理の徹底について、研修等の機会を通じて災害や感染症など有事の際の危機管理マニュアル等を周知し、理解を深める。また、災害発生時等において学生・教職員が的確な行動を取れるよう様々な防災訓練を段階的に企画・実施し、災害への対応能力を高める。 </td> <td data-bbox="2148 722 2778 911"> <ul style="list-style-type: none"> 【指標】リスク管理に関する研修の実施：1回／年 【指標】防災訓練の実施：2回／年 【指標】危機管理マニュアル等の教職員への周知：1回／年 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="1516 911 2148 1066"> <ul style="list-style-type: none"> ・CO2排出削減に向けて、設備更新時に併せて省エネ機器、高効率設備の導入を図るとともに、引き続き日常業務を通じて省資源・省エネルギーの取組を推進する。 </td> <td data-bbox="2148 911 2778 1066"> <ul style="list-style-type: none"> 【指標】保全計画等に基づく省エネ機器または高効率設備の計画的な執行 【指標】電気使用量：1,439千kWh以下／年 【指標】ガス使用量：360千m³以下／年 【指標】水道使用量：7.5千m³以下／年 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="1516 1066 2148 1222"> <ul style="list-style-type: none"> ・情報セキュリティ対策について、研修等の機会を通じて関係法令や情報セキュリティポリシー等の周知を図り、適切な取扱いを推進する。 </td> <td data-bbox="2148 1066 2778 1222"> <ul style="list-style-type: none"> 【指標】情報セキュリティに関する研修の実施：1回／年 【指標】研修実施後アンケートにおいて「本学の情報セキュリティポリシーの内容について理解が深まった」の割合：80%以上 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="1516 1222 2148 1377"> <ul style="list-style-type: none"> ・障がい者やLGBTへの理解や尊重、あらゆるハラスメントの防止を含むコンプライアンスについて、研修等の機会を通じて関係法令や学内規則等の周知を図り、教育・研究・地域貢献・大学運営のあらゆる場面において遵守する。 </td> <td data-bbox="2148 1222 2778 1377"> <ul style="list-style-type: none"> 【指標】コンプライアンスに関する研修の実施：1回／年 【指標】研修実施後のアンケートにおいて「理解した」の割合：80%以上 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="1516 1377 2148 1476"> <ul style="list-style-type: none"> ・研究機関としての信頼を担保し説明責任を果たすため、研究の不正防止を図るとともに、利益相反について適切な管理を行う。 </td> <td data-bbox="2148 1377 2778 1476"> <ul style="list-style-type: none"> 【指標】研究倫理教育の受講：対象者全員／年 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="1516 1476 2148 1644"> <ul style="list-style-type: none"> ・国の入試制度改革へ対応するとともに、インターネット出願の導入などの入試業務のデジタル化を進めることで入学者選抜試験を円滑に実施し、本学のアドミッション・ポリシーに掲げる本学が求める学生の確保を図る。 </td> <td data-bbox="2148 1476 2778 1644"> <ul style="list-style-type: none"> 【指標】令和7年度入学者に係る変更をふまえた入学者選抜試験の円滑な実施：令和6年度以降毎年度 【指標】デザイン学部・看護学部における志願倍率：2倍 </td> </tr> </table>		<ul style="list-style-type: none"> ・保全計画に基づき、計画的に施設や設備の整備・改修を行い、適切な維持管理を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 【指標】保全計画に基づく計画的な執行 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全管理の徹底について、研修等の機会を通じて災害や感染症など有事の際の危機管理マニュアル等を周知し、理解を深める。また、災害発生時等において学生・教職員が的確な行動を取れるよう様々な防災訓練を段階的に企画・実施し、災害への対応能力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 【指標】リスク管理に関する研修の実施：1回／年 【指標】防災訓練の実施：2回／年 【指標】危機管理マニュアル等の教職員への周知：1回／年 	<ul style="list-style-type: none"> ・CO2排出削減に向けて、設備更新時に併せて省エネ機器、高効率設備の導入を図るとともに、引き続き日常業務を通じて省資源・省エネルギーの取組を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 【指標】保全計画等に基づく省エネ機器または高効率設備の計画的な執行 【指標】電気使用量：1,439千kWh以下／年 【指標】ガス使用量：360千m³以下／年 【指標】水道使用量：7.5千m³以下／年 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報セキュリティ対策について、研修等の機会を通じて関係法令や情報セキュリティポリシー等の周知を図り、適切な取扱いを推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 【指標】情報セキュリティに関する研修の実施：1回／年 【指標】研修実施後アンケートにおいて「本学の情報セキュリティポリシーの内容について理解が深まった」の割合：80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい者やLGBTへの理解や尊重、あらゆるハラスメントの防止を含むコンプライアンスについて、研修等の機会を通じて関係法令や学内規則等の周知を図り、教育・研究・地域貢献・大学運営のあらゆる場面において遵守する。 	<ul style="list-style-type: none"> 【指標】コンプライアンスに関する研修の実施：1回／年 【指標】研修実施後のアンケートにおいて「理解した」の割合：80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究機関としての信頼を担保し説明責任を果たすため、研究の不正防止を図るとともに、利益相反について適切な管理を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 【指標】研究倫理教育の受講：対象者全員／年 	<ul style="list-style-type: none"> ・国の入試制度改革へ対応するとともに、インターネット出願の導入などの入試業務のデジタル化を進めることで入学者選抜試験を円滑に実施し、本学のアドミッション・ポリシーに掲げる本学が求める学生の確保を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 【指標】令和7年度入学者に係る変更をふまえた入学者選抜試験の円滑な実施：令和6年度以降毎年度 【指標】デザイン学部・看護学部における志願倍率：2倍
<ul style="list-style-type: none"> ・保全計画に基づき、計画的に施設や設備の整備・改修を行い、適切な維持管理を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 【指標】保全計画に基づく計画的な執行 															
<ul style="list-style-type: none"> ・安全管理の徹底について、研修等の機会を通じて災害や感染症など有事の際の危機管理マニュアル等を周知し、理解を深める。また、災害発生時等において学生・教職員が的確な行動を取れるよう様々な防災訓練を段階的に企画・実施し、災害への対応能力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 【指標】リスク管理に関する研修の実施：1回／年 【指標】防災訓練の実施：2回／年 【指標】危機管理マニュアル等の教職員への周知：1回／年 															
<ul style="list-style-type: none"> ・CO2排出削減に向けて、設備更新時に併せて省エネ機器、高効率設備の導入を図るとともに、引き続き日常業務を通じて省資源・省エネルギーの取組を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 【指標】保全計画等に基づく省エネ機器または高効率設備の計画的な執行 【指標】電気使用量：1,439千kWh以下／年 【指標】ガス使用量：360千m³以下／年 【指標】水道使用量：7.5千m³以下／年 															
<ul style="list-style-type: none"> ・情報セキュリティ対策について、研修等の機会を通じて関係法令や情報セキュリティポリシー等の周知を図り、適切な取扱いを推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 【指標】情報セキュリティに関する研修の実施：1回／年 【指標】研修実施後アンケートにおいて「本学の情報セキュリティポリシーの内容について理解が深まった」の割合：80%以上 															
<ul style="list-style-type: none"> ・障がい者やLGBTへの理解や尊重、あらゆるハラスメントの防止を含むコンプライアンスについて、研修等の機会を通じて関係法令や学内規則等の周知を図り、教育・研究・地域貢献・大学運営のあらゆる場面において遵守する。 	<ul style="list-style-type: none"> 【指標】コンプライアンスに関する研修の実施：1回／年 【指標】研修実施後のアンケートにおいて「理解した」の割合：80%以上 															
<ul style="list-style-type: none"> ・研究機関としての信頼を担保し説明責任を果たすため、研究の不正防止を図るとともに、利益相反について適切な管理を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 【指標】研究倫理教育の受講：対象者全員／年 															
<ul style="list-style-type: none"> ・国の入試制度改革へ対応するとともに、インターネット出願の導入などの入試業務のデジタル化を進めることで入学者選抜試験を円滑に実施し、本学のアドミッション・ポリシーに掲げる本学が求める学生の確保を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 【指標】令和7年度入学者に係る変更をふまえた入学者選抜試験の円滑な実施：令和6年度以降毎年度 【指標】デザイン学部・看護学部における志願倍率：2倍 															